

# じゅしゅう

## 秋季彼岸会 内勤

九月二十三日(祝)に当山の秋季彼岸会をおつとめさせて頂きました。ただ、盂蘭盆会に引き続き、緊急事態宣言が延長されたため、参拝のご案内はせず、寺族だけでの内勤めとなつたことは残念です。正信偈のおつとめの後には少しご法話も行い、お彼岸ですの「二河白道」のお諭を伝えることができました。

「彼岸」という言葉は季節を表すだけでなく、「彼岸の岸」とも読むように極楽浄土を表す言葉です。それに対して「此の岸」という言葉で私たちのいる娑婆を表す「此岸」もあります。善導大師が観経疏の散善義で表された「二河白道」というお諭があります。

ある旅人が友人を探して何も無い荒野を西に向かっています。ふと気がつくと、後ろから、つまり東側から盗賊や獣たちが囲むように襲ってきます。旅人は逃げようとして西へ向かいますが、目の前に突然火の河と水の河に出くわします。向こう岸までは百歩ほどの幅なのですが、火の河は南にどこまでも、水の河は北にどこまでも続いています。ちょうど中間に四・五寸くらいの白い道を見つめます。けれど、その白道を飲み込むように波が押し寄せ、入れ替わるように焼き尽くす如く炎が襲いかかっています。旅人は戻ること留まることも、進むことも許されません。どうしても死を免れないなら、むしろこの道を

第30号  
(通算370号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

### 浄覚寺ヨガ教室

- ・10月20日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ご参加いただける方はご一報いただくと助かります。

辿つて前に進もうと考えます。そう心に決めた時、東の岸から「ためらうことなこの道を行け、決して死ぬことはない」と勧める声が聞こえてきます。また、西の岸からは「一心にためらうことなくまっすぐ来るがよい。私が必ず護つてみせる」と喚ぶ声も聞こえてきます。旅人は白道を進んでいきます。少し行つた時東の岸から盗賊が「戻つてこい、その道は危険だ。俺たちはお前を殺そうとしているわけではない」と呼ぶ声も聞こえます。しかし旅人は振り返らず、その道を信じて進み、まもなく西の岸にたどり着き、そして善き友と出会うことができました。というお話です。

の河は貪欲(貪りの心)、火の河は瞋恚(怒りの心)という私の煩惱を、そして盗賊などが戻つてこいと呼んでいたのは、私を間違つた道に陥れようとする誘惑と諭えているのでしよう。そんな私の姿を気づかせて、この道を進めとお釈迦さまが示してくださり、大丈夫、必ず私が護るからと阿弥陀さまが喚び続けてくださつておられます。いや、私の側までいたり、寄り添い、手を取つてお浄土への道(人生)を共に歩んでくださる阿弥陀さまがおられるということをお聞かせいただくと味わっております。



仏さまは

聞いているよ

見ているよ

わかってくれているよ



# 御文章に聞く(第26回)

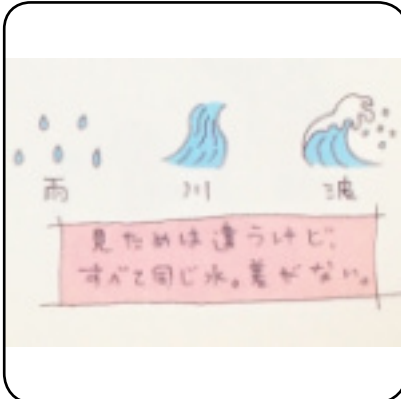
参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。先月はお休みをさせていただきましたが、蓮如上人の「機法一体」への理解を深めていきたいと思えます。善導大師が『観経疏』の中で「南無」といふはすなはちこれ帰命なり、またこれ発願回向の義なり。「阿弥陀仏」といふはすなはちこれその行なり。こ

**機法一体章**(四帖第十一通) 南無阿弥陀仏の体は・すなわちわれら衆生の・後生たすけたまえとたのみもうす心なり、すなわちたのみ衆生を・阿弥陀如来のよくしらしめして・すでに無上大利の功德をあたえましますなり、これを、衆生に回向したまえるといえるは・この心なり、

の義をもつてのゆゑにかならず往生を得。と述べられておられます。「南無」というインドの言葉は、仏さまの教命(仰せ・願い)に帰順(順う)することであるから「帰命」と翻訳することができます。また「阿弥陀仏」の四字は、本願成就して間違ひなくたすけてくださる救いの法(行)をあらわしているとのこと。ですので、善導大師は南無阿弥陀仏と念仏するものは、往生の願と行とを具足して、必ず往生できるという道理をあきらかにされたのです。その道理を受けて蓮如上人は必ずたすける「法」が私にいたり、その弥陀の願いを受け取り、仰せに順い、おまかせをするとの信心「機」が起り、「機」も「法」も弥陀側で成就されたものであるので「機法一体」とあらわされたのです。

# 仏教語辞典



如来の側から見ると、すべての存在は平等であり差別がない。ということであらわしている。それは、いろいろなところで流れている川の水が、海に流れるとただ一つの水となり区別がつかなくなることに同じである。

## 一味

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅこつ」をお届け致します。猛威を振るい続けている新型コロナウイルス。四度目の緊急事態宣言も、ようやく九月末で解除されることになりました。当山でもその間、法要や行事を中止しておりましたが、十月より再開させていただくこととなりました。もちろん感染防止対策は忘れずに行いたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。今年には仏教を日本に伝来させ、国教とし、仏教思想をもとに政治を執り行った聖徳太子の滅後一四〇〇年となります。住職が所属する雅楽団体、天王寺楽所雅亮会でも「和国の教主(聖徳太子と天王寺舞楽)」と銘打って自主公演会を開催します。別紙をご覧ください、ご興味を持っていただけたのであれば、招待券を差し上げますので、いつでもご連絡いただければと思います。(釋法道)

# 行事案内

日時・十月十六日(土) 十四時・十九時  
行事・永代経法要(開闢法要)  
場所・長原浄覚寺  
法話・若林真人先生(大阪)  
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

